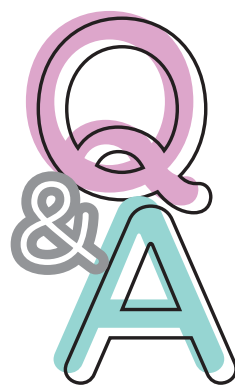


あなたの相談に専門医がお答えします

健康相談室



脳神経内科

顔の揺れを家族に指摘された。症状は止められるか？

61歳、男性。半年ほど前から、テレビをじっと見ているときに顔が左右に小刻みに揺れていると、家族にいわれるようになりました。ときどき茶碗を持つ手がふるえることはありますが、顔以外の揺れは今のところなさそうです。これからひどくなるのでしょうか？ 周りの目も気になり症状を止めたいのですが、治療法はありますか？（富山県 F）

「本態性振戦」と思われる。 薬物や手術で、治療は可能な病気

顔や頭が小刻みに揺れるという症状は、ときどきみられる症状で、けつしてまねなものではありません。顔とともに手も小刻みにふるえるという症状（結婚式の記帳や会議でマイクを持つときなど、緊張する場で手が小刻みにふるえるなど）をもっている人が多く、「本態性振戦」であることがまず考えられます。本態性は「原因不明」を、振戦は「ふるえ」を意味します。本態性振戦における顔や頭の小刻みな揺れは、ベッドの上で休む（安静）と止まることが多いことから、広義の姿勢時振戦（単純な動作や一定の姿勢を維持するときにみられるふるえ）にとらえられています。基本的には高齢者に多い病気ですが、実は20代ぐらいで発症することもあります。原因はわかっ

ていませんが、患者さんのご家族にもふるえの症状をもつ人が多いことから遺伝性があるといわれており、原因遺伝子も報告されています。本態性振戦は良性の病気です。命にかかわることはありません。しかし、QOL（生活の質）を下げ、外出できなくなる、人と会えなくなるといったことで、苦痛をもたらします。治療が可能な病気なので、医療機関で診てもらおうとよいでしょう。

一般的です。降圧薬のβ遮断薬や、一部の抗てんかん薬が有効です。治療前に自己評価で10点だったふるえが4点程度まで改善し、日常生活が楽に送れるようになることが多いです。ただし薬にも限界があり、ふるえが強い、声もふるえる、薬が効きにくいなどの場合は、手術を検討することもあります。手術にもいくつか方法があります。よく行われるのは、ふるえの信号を出す脳の視床の一部（VIM核）に電極針を挿入し、微弱電流を流してふるえを抑える「脳深部刺激療法」です。脳神経外科の専門医が担当し、安全で効果が高い治療で、健康保険も適用されます。

このように、さまざまな治療法がありますので、まずは専門医に相談されることをおすすめします。

回答者



東邦大学医療センター
佐倉病院 脳神経内科 教授
榊原 隆次

からだや心の病気についてのご相談や健康に関する疑問をお寄せください。ご相談は症状や経過を詳しく書き、住所・氏名（誌上ではすべて匿名）・年齢・電話番号と所属健保組合名（不明のときはお答えいたしかねます。個人購読の方は「個人購読」とお書きください）を明記して、返信用の84円切手を同封のうえお送りください。ご質問は封書1通につき1件とし、現在入院中のことについてはご遠慮ください。また、医療機関や医師の紹介は行っておりません。なお、誌上回答以外は回答が届くまで数カ月かかることがあります。

〒104-8104 東京都中央区銀座1-10-1
（株）法研「ヘルスアンドライフ」健康相談室係

※住所などの個人情報は守秘いたします。

※ドパミン神経の変性・脱落の程度が評価できる検査で、パーキンソン病やレビー小体型認知症の鑑別診断に役立つ。